

デジタルトランスフォーメーションの加速に向けた研究会 第3回議事要旨

会議概要

日時: 令和2年11月10日(火)14:00-16:00

場所: オンライン (Microsoft Teams を使用)

議事要旨

- 経営者・デジタルガバナンスコード
 - やはり経営者が重要。
 - ◇ 経営者は自分が何をわかっていないのかがわかっていないなどが現状であり、DX 銘柄の企業指定の選考プロセスに経営者との面接、インタビューを入れるなど経営者に考える機会を付与することも重要。
 - ◇ ダイアログでビジョン、ロードマップからアクションに落とししていく戦略展開のプロセスを明確に伝えることは現場が進めていく上では有効。
 - 経営者を含む全社的な連携が必要となる。
 - ◇ 実際問題、全部を把握できている経営者や IT 部門のトップはいない。DX の加速をしていくときに、特に業務部門にどう方向づけや意識づけを行い、コミットさせていくかが課題となる。
 - ◇ IT 部門だけではなく、経営者、事業部門と三位一体になって対話をしながら進めていくことが極めて重要。
 - CIO、CDO が DX をリードしていく上でデジタルガバナンスコードは非常に重要な視点。
 - ◇ デジタルガバナンスコードを企業価値、機関投資家とリンクさせながらすすめることが求められる。
- 人材流動化・内製強化と人材開発・キャリアパス
 - 日本は人材流動性が低いので、ある程度踏み込んでアドバイスすることが必要。
 - ◇ 実際にどうやって人材確保をしたらよいかわからないとの反論が出てしまう可能性がある。
 - ◇ IT 部門の内製強化に向けては、IT 部門はコストセンターという認識が強く、経営者が投資の側面を理解することが重要であり意識改革が必要。
 - 人が会社を動くという形ではなくとも、流動性をどう高めていけるかは論点。
 - ◇ 個社の垣根をとって、先端的スキルを持っている人と仕事をする中で社内の人々のスキルを伸ばしていくなど。

- コロナを契機としたテレワークを IT 業界が DX を推進するにあたって如何にうまく使っていかは重要。
 - ◇ テレワークを DX 人材の相互の融通に繋げる形で進めていくためのプラットフォームなど
 - ◇ 顧客にプラットフォームの共同化を促すだけでなく、IT 業界もプラットフォームの共同化が重要。
- 環境変化が激しく、不確実性が高い経営環境においては学び直しを頻繁に行う事が必要であり、リカレント教育の仕組みの整備が求められる。
- 受託開発と責任分界点
 - ベンダの役割がパートナーとなった時、従来の受託開発と働き方、責任範囲がどう変わるかを明確にすることが重要。
 - ◇ 最終的には Revenue Share、Profit Share まで行けばよいが、システムをうまく使いこなせるかは顧客次第であり、ベンダはそこまでリスクを取れない。
 - 業界全体で仕組みを作っていくことが重要であり、政府への期待もある。
- 共通プラットフォーム
 - なかなかベンダ単独で話を進めていくのは難しいが、共通プラットフォーム作成が重要という政府の後押しが入れば、かなり進むのではないか。
 - 共通プラットフォームの採用により、サイバセキュリティの(脅威への)対応ができるという要素も必要。
 - ◇ セキュリティは個社での対応には限界があり、共通プラットフォームがある程度できると、中小企業も含めて DX に一歩踏み出しやすく、こういう指針が政府から出てこないかという期待も強い。
- 中小企業
 - 中小企業については、かなり重要視して、今後議論する必要がある。
 - 中小企業に関して、共通プラットフォームは非競争領域のみならず競争領域についても踏み込める可能性がある。

以上